

ガントリークレーン建設 西港の土地を無断で占有

大企業・特定企業への破格の優遇？

村上議員の本会議での反対討論（大要）

釧路市は、ガントリークレーン設置予算を再検討する立場を表明しながら、港湾協会の組織をあげた強い抗議に、簡単に自説をねじまげ、建設に転じました。今回の議案に賛成している議員も、一連の市の右往左往した態度に、無条件の支持を寄せている議員はいないはず。何よりも、市はこうした不信にこそ、真摯に答えるべきです。

さて、市が強行しようとしているガントリークレーン。市は、ガントリークレーンの必要性を語る時、そのすべての資料は港湾協会が作成したものです。年間コンテナの取扱量が3万個になれば、ガントリークレーンの採算が取れると言いますが、その根拠を問われると、「港湾協会が試算したものでわからない」と、その根拠すら説明できません。また、独自の責任ある試算をおこなうつもりすらありません。

私の試算によれば、年間3万個のコンテナの取扱量では、建設債の償還額すらまかなえず、維持費、埠頭・岸壁の整備費などをまかなうには6万個が必要です。港湾協会すらガントリークレーン稼動15年後でないと到達しないと試算した水準です。黒字化のメドは全くありません。多額の費用を、結果として、企業会計全体と一般会計で負担せざるをえないのです。

国保料の引き下げによせるささやかな市民の願いに背を向けながら、港湾を利用する企業に対して、破格の便宜をはかるやり方には、賛成できません。

さらに、今議会において、現在、外貿コンテナヤードとして利用している土地を、港湾協会会長を擁する企業が、市との賃借契約の場所をはるかに越えて、無断で占有していることが発覚しました。ガントリークレーン設置によって、釧路市と市民へ、新たな負担を求めながら、肝心のわが足元においては、まともな支払いさえせず、プレハブなどを作っていたことは、言語道断といわざるを得ません。こうした問題が、長期にわたって発覚せず、隠され続けた一因も港湾行政における特定企業への追随ぶりがあります。

議会は、港湾協会からガントリークレーン建設の陳情を行政と一緒に聞く場を事実上設け、ガントリークレーン設置の露払いの役割を演じました。行政のチェック機関として、市議会の存在意義も問われています。

最後に私は、不要不急の大型公共建設となるガントリークレーンの設置に対して、反対する共産党議員団の見解を改めて表明いたしまして、反対討論といたします。

市は、延期を決めかけたガントリークレーンを、増額したうえで改めて西港に建設することにしました。ガントリークレーンは、外国貿易用のコンテナを積みおろしする施設で、総工費九億円、岸壁などの整備費が他に三億円以上かかります。使用料でまかなうとされていますが、相当額が市民負担となります。恩恵を受けるのは、港湾で荷役作業をしている三ツ輪運輸と、コンテナ利用を増やしたいと考えている日本製紙、王子製紙などです。ムダな大型建設をやるべからず、財政再建の要です。



西港第4埠頭でコンテナの積み下ろしに使っているジブクレーン。大型ガントリークレーンに切り替えれば、貨物は増えると市は言います。

新聞でも大きく報道された事件

これが三ツ輪運輸の 無断使用の動かぬ証拠写真

借りていない土地に休憩所やトイレも作っていました



ガントリークレーン設置を強力に推し進めているのが釧路港湾協会です。会長職は三ツ輪運輸です。実は、この会社はコンテナの積み下ろしのため西港第4埠頭の土地を賃借しているのですが、借りている土地の倍以上の土地を勝手に使っていることがわかりました。まぬがれた賃借料は年間六五〇万円弱、仮に五年とすると三千万円を優に越えます。市の管理も含めて、あまりにも皆さん、不可解な関係と言わざるを得ません。